

平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた高梁川本川沿川4市長との意見交換会 議事概要

日時:令和 5 年 5 月 15 日(月)10:00~11:30

場所:岡山河川事務所 2 階会議室

【市長から出された主なご意見】

- 昨年度の台風第 14 号による大雨では、基準雨量の超過や倒木による道路の通行止めが発生した。その際、住民の事前行動に繋げるため告知放送や HP 等の様々な手段を用いて住民に情報発信した。
- 県による高梁川本川、支川の浚渫や樹木伐採やダム的事前放流への取り組み、また、小阪部川ダムについては、低水管理による貯留容量の確保を実施していただいたことで大雨でも河川の大きな水位上昇も少なく浸水被害等がなかったと感じており、感謝している。
- 高梁川水系の中小河川における想定最大規模(L2)と計画規模(L1)の洪水浸水想定区域図を作成していただいたと聞いている。これらを基に水害リスク情報について、住民に積極的に周知していく。
- 今後とも災害防止のため、情報共有と連携体制の強化に努めていく。
- 竹林の伐採に順次着手して頂いており、景観や観光振興にも寄与していると感じている。
- ハード・ソフトの取り組みが着実に進んでいると感じている。今後も引き続きお願いしたい。
- 流域治水の新たな事業の項目等は必要なメニューであるため、一級河川高梁川水系中上流ブロック河川整備計画と併せて実施計画を作成して、すすめていただきたい。
- 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)において、高梁市がモデル自治体として実証実験に参加した「市町村災害対応統合システム(IDR4M)」については、実証実験中にはシステムの活用がなかったが、災害時を想定した訓練を実施する必要があると考えている。
- 5月6~8日にかけての大雨では、高梁市内で河川の水位が上昇したが、流域治水等の取り組みを進めて頂いていたことにより、今回は大きな被害には至らなかったため感謝している。
- 国土強靱化5か年加速化対策は、来年度が最終年であるが、高梁川水系の中上流域における次の治水対策を考えていく必要があると考えている。
- 平成 30 年 7 月豪雨から 5 年が経過し、住民の防災意識の低下を懸念している。日頃の危機管理、防災意識を住民と共有することを目標に自主防災組織の構築、防災訓練の実施を推進しているため、引き続き支援をお願いしたい。
- 出水期を迎えるに当たり、緊張感を持って対応していくと共に連絡体制については複数

回線を備え、連携して取り組んでいきたい。

- 中国電力で実施される洪水対応演習、事前放流に関する研修に市町村も参加させて頂き、情報共有の訓練を実施させて頂きたい。
- 5月7～8日にかけての大雨では、市内で約140mmの雨を記録し、日羽の水位が7.01mまで上昇したが、以前であったら8mぐらいにはなっていたのではないかとかんじている。平成30年7月豪雨以降に実施頂いた様々な取り組みにより、高梁川の水位低減につながっていることを実感した。
- 軽部川では、日羽の水位が7.01mで高梁川本川からの逆流は発生しなかったが、水位が高かったため排水ポンプを早めに稼働し、越水を免れた。軽部川の河道掘削とポンプの増強を引き続きお願いしたい。
- 総社市、倉敷市に跨る川辺橋の橋脚が傾いた件について、今回の大雨による河川の増水が要因と推測している。早急な復旧に尽力頂きたい。
- 種井地区の河道掘削は未着手、下倉地区の河道掘削、国道180号の嵩上げを進めて頂いているが、下倉橋の北部の樹木伐採や河道掘削、福谷地区の竹林伐採を今回お願いしたい。
- 平成30年7月豪雨から5年目を迎えたが、小田川合流点付替え事業等の様々な取り組みを実施していただき感謝している。
- ダムの事前放流について、気象予測精度の改善が必要であるが、事前放流により上下流で情報共有や対応等の連携が取れていると感じている。
- 工事が日々進み、住民の安心安全につながっている。一方で、災害からの復興が進捗した分、住民の危機意識が低下傾向にあることが課題と考えている。
- 流域治水の取り組みについて、住民の皆様にも自分事として捉えて頂き、国の強力なリーダーシップの基、流域全体で取り組むことが必要である。
- 5月6日から8日にかけての大雨により、川辺橋の橋脚が傾き、トラスが変状している。出水期が近づく中、川の中に橋梁の一部が流出し洪水流下の支障になってはいけないため、早期の対応をお願いしたい。
- 河川工事による川の断面や流れの変化について、災害の発生につながらないように調査して頂きたい。
- 国土強靱化5か年加速化対策の終了後も、連携して対策を進めていきたい。

【河川管理者及びダム管理者からの主な発言】

- 5月6日から8日にかけての大雨では結果的には被害は無かったが、雨の降り方が変化してきているため、より一層の緊張感を持って対応していきたい。
- 河道掘削、樹木伐採を引き続き計画的に推進するとともに、住民の防災意識の低下に対して、国土交通省HP等を用いて周知していく。
- 国土強靱化対策が5年間のうち4年目を迎えたが、完了後も治水対策を引き続き推進

していく。

- 川辺橋の対応について、中国地方整備局として相談体制、支援体制を整えて対応する。
- 災害意識の低下について、(地域住民の皆様)に流域治水を自分事として捉えて頂くことを目標としている。被害を受けていない地区は災害意識が低い傾向があるため、これらの住民に対しても対策を検討していく。
- 川の流れが変化していることについて、巡視や点検を実施している他、ドローンによる調査等の技術を活用して河川の安全を確認していく。
- 河川整備計画に基づいた事業展開を検討し、河道掘削、樹木伐採について引き続き取り組む。
- ダムの事前放流についても、気象状況を注視しながら引き続き対応する。
- 想定最大規模(L2)、計画規模(L1)の洪水浸水想定区域図について、3月末に公表した小田川流域に引き続き、高梁川本川流域の全河川を対象に、早期の公表に向けた検討を進めている。
- 日頃の危機管理、災害時の情報共有について、河川の危機管理に関する情報をできるだけ速やかに提供したいと考えているため、市町村からも要望をいただきたい。
- 復緊事業について、完了に向けてしっかりと進めていく。
- 軽部川の改修について、国・県・市で連携して対策について協議を進めているため、引き続き協力いただきたい。
- 末政川等の3支川の改修について、市の協力を頂きながら完了に向けて進めていく。
- 川辺橋について、通行の安全を確保するための対策を当面は実施しているが、更なる安全対策を検討していく。
- 傾斜している橋は倒壊する恐れもあるため、撤去するように準備工事に着手しており、できるだけ早い撤去に取り組んでいく。
- 農業用ダムの事前放流は、農家の方々の理解を得て実施している。流域治水の一員として、今後も取組を継続していきたい。
- 出水期を迎えるにあたり、市長から頂いたご意見を社内で共有し、事前放流等に万全を期して対応していきたい。
- 社内で実施する訓練では、社外への連絡を実際に行う場合もある。訓練への市町村の参加について、別途相談させていただく。